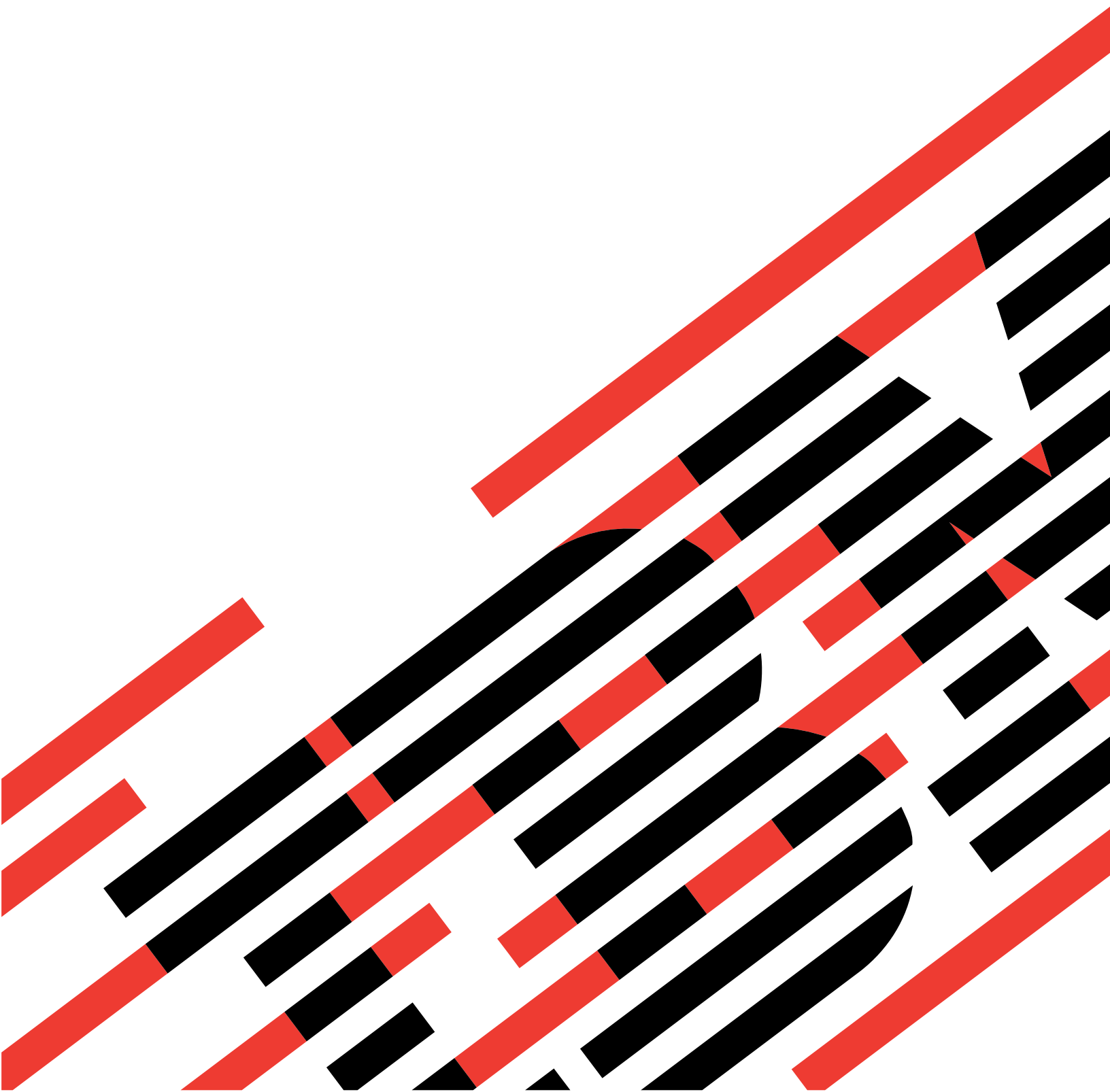


IBM

@server

iSeries

中央サイトからの配布





@server

iSeries

中央サイトからの配布

本マニュアルに関するご意見やご感想は、次の URL からお送りください。今後の参考にさせていただきます。

<http://www.ibm.com/jp/manuals/main/mail.html>

なお、日本 IBM 発行のマニュアルはインターネット経由でもご購入いただけます。詳しくは

<http://www.ibm.com/jp/manuals/> の「ご注文について」をご覧ください。

(URL は、変更になる場合があります)

原 典： RZAI-4000-04
iSeries
Central site distribution

発 行： 日本アイ・ピー・エム株式会社

担 当： ナショナル・ランゲージ・サポート

第1刷 2002.11

この文書では、平成明朝体™W3、平成明朝体™W9、平成角ゴシック体™W3、平成角ゴシック体™W5、および平成角ゴシック体™W7を使用しています。この(書体*)は、(財)日本規格協会と使用契約を締結し使用しているものです。フォントとして無断複製することは禁止されています。

注* 平成明朝体™W3、平成明朝体™W9、平成角ゴシック体™W3、
平成角ゴシック体™W5、平成角ゴシック体™W7



© Copyright International Business Machines Corporation 1998, 2002. All rights reserved.



© Copyright IBM Japan 2002




目次

中央サイトからの配布	1
V5R2 の新機能	2
トピックの印刷	2
ソフトウェア配布準備チェックリスト	3
ソフトウェア・ライセンス情報の配布の準備	4
iSeries ナビゲーターまたは用紙によるソフトウェア・ライセンス情報の配布	5
ターゲット・システム用のユーザー定義導入プログラムの作成	6
配布媒体作成チェックリスト	7
配布媒体導入チェックリスト	9
ターゲット・システムへの導入作業	9
導入後のオプションの作業	10
中央サイトからの配布の概念	11
中央サイトからの配布に関する用語	11
セントラル・システムからのソフトウェア配布作業の概要	12
ソフトウェア・ライセンス情報の配布	13
中央サイトからの配布で使用する配布媒体のタイプ	14
導入プロファイル	14
配布媒体の導入に導入プロファイルを使用することの利点	15
ターゲット・システムへの導入方法	16
ライセンス・プログラムの圧縮と解凍	16
1 次および 2 次言語ファイルの配布	17
プログラム一時修正 (PTF) の中央サイトからの配布	17
ユーザー定義の導入 (QLPUSER) プログラムの導入に関するトラブルシューティング	17
中央サイトからの配布についての関連情報	18
配布媒体の内容	19
2 次言語をサポートしないライセンス・プログラム	21
カバー・シート	22
コードに関する特記事項	23

中央サイトからの配布

中央サイトからの配布は、1 つの iSeries[™] サーバー  または論理区画のソフトウェアを複製し、 その複製したものを複数の iSeries サーバーに配布するプロセスです。このメカニズムは、ネットワークが大規模であり、コンピューティング環境のすべての iSeries サーバーを同一にしたい場合に特に有効で便利です。中央サイトからの配布プロセスにより、ターゲット・システムへの導入手順ステップ数が減るので、時間、労力、および費用を節約できます。

中央サイトからの配布は、全システム・アップグレード時のソフトウェアの配布に最も頻繁に利用されます。この配布には、OS/400[®]、プログラム一時修正 (PTF)、IBM[®] ライセンス・プログラム、IBM 以外のライセンス・プログラム、およびユーザー・ライブラリーなどのソフトウェアが含まれます。 また、論理区画のソフトウェアを、区画分けされている、もしくは区画分けされていない複数の iSeries システムに配布する場合も中央サイトからの配布を利用できます。

1 つ以上のライセンス・プログラムの配布に中央サイトからの配布を利用できますが、最速かつ最も効率的な配布方法は、iSeries ナビゲーターのマネージメント・セントラル配布機能を使用することです。詳しくは、ソフトウェア・プロダクトの管理を参照してください。1 つ以上のライセンス・プログラムを CD-ROM で配布することもできます。 配布のための CD-ROM のプリマスターリングについては、CD-ROM による iSeries ソフトウェアの配布  を参照してください。

ユーザー・データを含む、全システム・アップグレードのソフトウェアを 1 つのサーバーにのみ配布する場合は、移行トピックを参照してください。

中央サイトからの配布に関する新規情報および変更情報については、2 ページの『V5R2 の新機能』を参照してください。トピック全体を印刷したい場合は、2 ページの『トピックの印刷』を参照してください。

セントラル・システムからソフトウェアを配布するには、以下の作業チェックリストの処理項目を実行してください。

3 ページの『ソフトウェア配布準備チェックリスト』

セントラル・システムからのソフトウェアの配布のためのセントラル・システムとターゲット・システムの準備について説明しています。これには、キー付きプロダクトおよびライセンス情報が含まれた標準プロダクトへのライセンス交付情報の準備が含まれます。また、導入プロファイル、ターゲット・システムへの導入方法、および配布媒体の選択も必要です。

7 ページの『配布媒体作成チェックリスト』

ここでは、GO LICPGM メニューに入って、配布媒体を作成します。媒体を作成した後、その媒体の内容を検証し、複製を作成する必要があります。

9 ページの『配布媒体導入チェックリスト』

ここでは、ソフトウェア・インストール・マニュアルを使用して、ターゲット・システムに配布媒体を導入します。その後、お客様の配布に当てはまる一連の作業 (ユーザー定義の導入プログラムが正常に導入されたかどうかの検証など) を実行しなければなりません。

中央サイトからの配布プロセスに関する概念、またはユーザー定義の導入プログラムの導入に関するトラブルシューティングについては、以下の項を参照してください。

11 ページの『中央サイトからの配布の概念』

セントラル・システムからのソフトウェア配布の基本について説明します。セントラル・システムか

らのソフトウェア配布プロセスについて理解してください。お客様のコンピューティング環境に最も適している配布媒体はどれかを検討する必要があります。導入プロファイル使用の利点、およびユーザー定義導入プログラム作成の利点について説明しています。ライセンス・プログラムの圧縮方法および 2 次言語ファイルの配布方法を理解してください。

17 ページの『ユーザー定義の導入 (QLPUSER) プログラムの導入に関するトラブルシューティング』の導入に関するトラブルシューティング

QLPUSER プログラムが正常に導入されない場合の共通の原因や、エラーの再発を防ぐ方法について説明します。

注 重要なリーガル情報については、23 ページの『コードに関する特記事項』を参照してください。

V5R2 の新機能



中央サイトからの配布トピックは、再編成されて使いやすくなり、中央サイトからの配布用の新しい媒体が取り入れられました。

新規の配布媒体

このリリースでは、DVD を作成して、その DVD をイメージ・カタログに変換し、そのイメージ・カタログを使用してソフトウェアを配布することができます。この媒体による配布は迅速で便利であり、なおかつ他の配布媒体よりも経済的な場合があります。この配布媒体は、V5R2 から V5R2 への配布でのみサポートされます。

新機能または変更点の確認方法

技術上の変更が加えられた部分を確認できるように、本書では以下の記号が使用されています。

-  イメージは、新規または変更情報の始まりを指しています。
-  イメージは、新規または変更情報の終わりを指しています。

このリリースの新規または変更部分に関するその他の情報については、プログラム資料説明書を参照してください。

トピックの印刷


PDF バージョンを表示またはダウンロードするには、「中央サイトからの配布 (Central site distribution)」(約30 ページ) を選択します。

中央サイトからの配布に関連した特定の参照情報のみを印刷することもできます。

- 19 ページの『配布媒体の内容』
- 21 ページの『2 次言語をサポートしないライセンス・プログラム』
- 22 ページの『カバー・シート』

その他の情報

関連したトピックや資料を表示または印刷できます。


- OS/400^(R) のリリースおよび関連ソフトウェアのインストール
- 「ソフトウェアの導入」  マニュアル (約 250 ページ)

PDF ファイルの保管

表示用または印刷用の PDF ファイルを Netscape Navigator からワークステーションに保管するには、次のようにします。






1. ブラウザーで、PDF を右マウス・ボタンでクリックする (上記のリンクを右マウス・ボタンでクリックする)。
2. Internet Explorer を使用している場合は、「対象をファイルに保存」をクリックする。 Netscape Communicator を使用している場合は、「Save Link As...」をクリックする。
3. PDF を保管したい登録簿に進む。
4. 「保存」をクリックする。

Adobe Acrobat Reader のダウンロード

これらの PDF を表示したり印刷するには Adobe Acrobat Reader が必要です。これは、Adobe Web サイト  からダウンロードできます。

ソフトウェア配布準備チェックリスト



セントラル・システムからソフトウェアを配布するには、以下のチェックリスト内のステップをすべて実行してください。最初に、『始める前に』チェックリスト内の処理項目をすべて実行します。次に、『セントラル・システムからのソフトウェア配布の準備』の手順を実行します。最後に、『終了する際に』チェックリスト内の処理項目を実行します。

始める前に
<input type="checkbox"/> 12 ページの『セントラル・システムからのソフトウェア配布作業の概要』の内容をよく理解してください。ここには、GO LICPGM メニューのオプション 40 (配布媒体の作成) を使用して保管されたオブジェクトの概略を含む、中央サイト配布プロセスの概要が書かれています。
<input type="checkbox"/> ターゲット・システムに、配布されるすべてのライセンス・プログラムを格納するのに十分な記憶空間があるかを検証します。適切な記憶空間の検証方法については、サーバーがディスク記憶域要件を満たしているかの確認を参照してください。
<input type="checkbox"/> セントラル・システムとターゲット・システム上のソフトウェアおよびハードウェアのリリースが、中央サイトからの配布後に互換性のあるリリースとなることを確認します。どの OS/400 ^(R) のリリースが、どのモデルに導入可能かを判別するには、IBM  iSeries Handbook  を参照してください。
<input type="checkbox"/> セントラル・システムとターゲット・システム上の OS/400 のリリースが、中央サイトからの配布後に互換性のあるリリースとなることを確認します。この検証については、リリースの相互運用性を参照してください。ネットワークに複数の iSeries ^(TM) サーバーが存在する場合、データの交換や、オブジェクトの保管および復元を行うためには、それらのサーバーが互換性のあるリリースでなくてはなりません。
<input type="checkbox"/>  IBM ^(R) WebSphere ^(R) Host Publisher の配布はプランしないでください。このプロダクトは、保管および復元機能をサポートしないので、配布できません。ターゲット・システムに IBM WebSphere Host Publisher を導入するには、iSeries Access for Web で入手可能な「iSeries Access for Web Installation and Usage Guide」を参照してください。  
<input type="checkbox"/> すべてのプログラム一時修正 (PTF) がセントラル・システムに適用されていることを確認します。中央サイトからの配布プロセスにおける PTF の詳細については、17 ページの『プログラム一時修正 (PTF) の中央サイトからの配布』を参照してください。

始める前に

セントラル・システムが安定していることを確認します。安定度を確認するために、セントラル・システムを数週間テストすることもできます。

セントラル・システムからのソフトウェア配布の準備

1. ターゲット・システムへの導入方法を選択します。
16 ページの『ターゲット・システムへの導入方法』の説明に従って、自動導入または手動導入のいずれかを選択します。
2. 導入プロファイルを選択するか、もしくはカスタマイズします。
以下のいずれか 1 つのプログラムを選択するか、またはカスタマイズしてください。
 - 現行リリースの置き換え (QRPLRELLVL)
 - 新規システムの導入 (QINSNEWSYS)
 - 現行リリースの IBM 置き換え (QIBMRPLRLS)
 - 1 次言語の変更 (QCHGPRILNG)詳しくは、14 ページの『導入プロファイル』を参照してください。
3. 配布媒体を選択します。
14 ページの『中央サイトからの配布で使用する配布媒体のタイプ』の説明に従って、 イメージ・カタログ、 磁気テープ、DVD、または CD-ROM を選択します。
4. 『ソフトウェア・ライセンス情報の配布の準備』
OS/400 のライセンス管理を採用しているプロダクトのライセンス情報を準備します。
5. オプション: 6 ページの『ターゲット・システム用のユーザー定義導入プログラムの作成』
配布媒体の保管する予定の追加ライブラリーとその他のオブジェクトは、自動的に復元されます。
6. ライセンス・プログラムの圧縮と解凍に関して考慮してください。
オブジェクト圧縮 (CPROBJ) コマンドを使用して、ライセンス・プログラムを圧縮します。詳しくは、16 ページの『ライセンス・プログラムの圧縮と解凍』を参照してください。

終了する際に

お客様が選択した、ターゲット・システムへの導入方法、導入プロファイル、および配布媒体をメモしておきます。

ライセンス情報の配布ストラテジーをメモしておき、ライセンス情報を配布する準備ができていることを確認します。

ユーザー定義プログラムが予想通り動作することを確認します。

次にすること:

7 ページの『配布媒体作成チェックリスト』の処理項目をすべて実行してください。

ソフトウェア・ライセンス情報の配布の準備

ライセンス・プログラムの 13 ページの『ソフトウェア・ライセンス情報の配布』は、配布媒体と中央サイトからの配布を使用して配布します。配布する必要のあるソフトウェア・ライセンス情報は、各プロダクトの使用制限情報です。プロダクトをターゲット・システムで使用できるようにするには、使用制限情報を配布する必要があります。キー付きプロダクトは、それぞれのターゲット・システムごとに固有のライセンス・キーを必要とするので、標準のプロダクトより注意を払う必要があります。また、5 ページの『iSeries ナビゲーターまたは用紙によるソフトウェア・ライセンス情報の配布』を行なうこともできます。

以下の手順で、ソフトウェア・ライセンス情報の配布の準備を行ってください。

1. 標準プロダクトのライセンス情報を準備します。

標準プロダクトのライセンス情報を配布するには、ターゲット・システムの使用制限を設定する必要があります。この作業を行った後、使用制限は自動的に配布媒体に組み込まれます。

2. キー付きプロダクトのライセンス・キーを準備します。

- a. ライセンス・キーの追加 (ADDLICKEY) コマンドを実行して、すべてのターゲット・システムの全ライセンス・キーをライセンス・キー・リポジトリに追加します。ライセンス・キー・リポジトリの詳細については、『ライセンス・キー情報の追加』を参照してください。
- b. 以下のようにライセンス・キー情報の表示 (DSPLICKEY) コマンドを使用して、ライセンス・キー・ファイルを作成します。

```
DSPLICKEY PRDID(*ALL) LICTRM(*ALL) FEATURE(*ALL) SERIAL(*ALL) OUTPUT(*LICKEYFILE)
LICKEYFILE(QSYS/QALZALPKEY) LICKEYMBR(QALZALPKEY)
```

ライセンス・キー・ファイルは、QALZALPKEY という名前で QSYS ライブラリーに保管してください。その他の名前を使用すると、ソフトウェアのアップグレード時にライセンス・キーが導入されなくなります。

次にすること:

3 ページの『ソフトウェア配布準備チェックリスト』の中の処理を実行してください。

iSeries ナビゲーターまたは用紙によるソフトウェア・ライセンス情報の配布

iSeries^(TM) ナビゲーターまたは用紙によってソフトウェア・ライセンス情報を配布する場合は、以下の手順で行ってください。

- iSeries ナビゲーターを使用したライセンス・キーの配布
iSeries ナビゲーターのマネージメント・セントラル配布機能のパッケージおよび送信オプションを使用して、ライセンス・キーを配布します。
- 用紙によるライセンス情報の配布
 1. ライセンス情報の配布の準備を行います。
 - a. 配布するそれぞれのプロダクトごとに、ライセンス証書を確認します。
 - b. それぞれのライセンス証書の複写をとります。
 - c. 各ターゲット・システムに、配布媒体と共に各ライセンス証書の複写を送信します。
 2. ターゲット・システムに配布媒体を導入した後、ターゲット・システムのライセンス情報を更新します。
 - a. ライセンス情報の処理 (WRKLICINF) コマンドを使用して、ライセンス管理を使用する導入済みのプロダクトおよび機能のリストを表示します。
 - b. F11 (使用法情報の表示) を押して、使用制限を表示します。プロダクトの使用制限は、更新されていなければ、通常は 0 です。
 - c. オプション 5 (詳細の表示) を選択して、プロダクトの承諾タイプを確認します。承諾タイプが *KEYED の場合は、次のステップに進みます。承諾タイプが *WARNING または *OPRACION の場合は、標準プロダクトの使用制限を設定してから、次のステップに進みます。
 - d. ライセンス・キーを追加するプロダクトの隣りのオプション列に、1 (ライセンス・キーの追加) を入力し、Enter キーを押します。
 - e. ソフトウェア提供者から受け取った情報と一致するようにプロンプトの内容を更新し、Enter キーを押します。

通常は、ライセンス・キーおよび使用制限フィールドを更新する必要があります。場合によっては、プロセッサ・グループ、満了日、および取引先データ・フィールドを更新することが必要になります。新しく設定した使用制限が、「ライセンス情報の処理」画面に表示されます。

- f. WRKCLICINF コマンドによって表示されたそれぞれのプロダクトについて、上記のステップを繰り返します。

ターゲット・システム用のユーザー定義導入プログラムの作成

ユーザー定義の導入プログラムは、作業を実行して、ターゲット・システムの操作員に適切な指示を送ります。ユーザー定義の導入プログラムにより、多数の導入作業を自動的に実行し、カスタマー作成アプリケーションをターゲット・システムに導入することができます。

ユーザー定義の導入プログラムを作成するには、以下の手順を実行します。

1. オブジェクトをターゲット・システムに復元するための指示を、ユーザー・プログラムに組み込みます。ユーザー定義の導入プログラムに組み込むことができる指示のリストが、9ページの『ターゲット・システムへの導入作業』にありますので、参照してください。すべての指示をプログラムに組み込むこともできますし、お客様の配布に適した指示のみを組み込むこともできます。
2. QLPUSER という名前でプログラムを作成して、QGGL ライブラリーに保管します。QGGL ライブラリーに QLPUSER プログラムがすでに存在する場合、システムは、自動導入時に、QGGL ライブラリーを復元する前にそのプログラムを削除します。これにより、配布媒体が追加の処理を制御するようになります。IBM 提供の媒体の自動導入を利用する場合、セントラル・システムには、QLPUSER プログラムの別個のコピーが存在しなければなりません。
3. ユーザー・プログラムを作成したら、以下の処理を行ってください。
 - a. ユーザー定義の導入プログラムをテストして、それが予期されたとおりに機能することを確認します。
 - b. プログラムの 1 つのコピーを、セントラル・システムのユーザー・ライブラリーの 1 つに保管します。
 - c. 固有の処理を必要とする複数のターゲット・システムがある場合は、それぞれのターゲット・システムごとに個別のプログラムを作成する必要があります。

例: ユーザー定義の導入プログラム

以下の制御言語 (CL) プログラムは、ユーザー定義の導入プログラムの例です。このプログラムは、ターゲット・システムの操作員に指示を送ります。さらにこのプログラムは、アプリケーションが入っているライブラリーを復元し、アプリケーションを開始するためのコマンドを QGGL ライブラリーにコピーします。

注: 例の中の &DEVICE パラメーターは、媒体装置の名前です。&SUCCESS パラメーターは、すべてのライセンス・プログラムが正常に導入されたかどうかを示すインディケーターとして使用されます。

```
PGM          PARM(&DEVICE &SUCCESS)
DCL          VAR(&DEVICE) TYPE(*CHAR) LEN(10)
DCL          VAR(&SUCCESS) TYPE(*CHAR) LEN(1)
IF           COND(&SUCCESS *EQ '1') THEN(DO)
             SNDUSRMSG MSG('Load the tape in ' *CAT &DEVICE *CAT +
                           'and press the Enter key.')
             RSTLIB SAVLIB(APP1) DEV(&DEVICE)
             CRTDUPOBJ OBJ(STRAPP1) FROMLIB(APP1) +
                           OBJTYPE(*CMD) TOLIB(QGGL)
ENDDO
```

```

ELSE
  SNDUSRMSG MSG('One or more licensed programs failed to +
                install.')
```

ENDPGM

注 重要なリーガル情報については、23 ページの『コードに関する特記事項』を参照してください。

次にすること:

3 ページの『ソフトウェア配布準備チェックリスト』の中の処理を実行してください。

配布媒体作成チェックリスト



▶ イメージ・カタログ、◀ 磁気テープ、または DVD を配布媒体として選択した場合は、以下のチェックリストに従って配布媒体を作成してください。最初に、『始める前に』チェックリスト内の処理項目をすべて実行します。次に、『配布媒体の作成』の手順を実行します。最後に、『終了する際に』チェックリスト内の処理項目を実行します。

▶ CD-ROM を配布媒体として選択した場合は、CD-ROM による iSeriesTM ソフトウェアの配布  を参照して、CD-ROM を作成してください。◀

始める前に
<input type="checkbox"/> 17 ページの『1 次および 2 次言語ファイルの配布』の配布を予定している場合は、以下のことを理解しておく必要があります。 <ul style="list-style-type: none"> • 2 次言語の各国語バージョンの機能コード。 • 21 ページの『2 次言語をサポートしないライセンス・プログラム』。
<input type="checkbox"/> 配布媒体の 22 ページの『カバー・シート』のコピーを印刷してください。配布媒体を作成する際に必要となります。
<input type="checkbox"/> 専用のセントラル・システムがあることを確認します。
<input type="checkbox"/> *SAVSYS および *JOBCTL 特殊権限をもっている必要があります。これらの権限をもっていないと、配布媒体を作成できません。
<input type="checkbox"/> *JRNRCV オブジェクトが QSYS ライブラリーに含まれていないことを確認します。
<input type="checkbox"/> セントラル・システムで、QALWBJRST (オブジェクト復元可能) システム値を *ALL に変更します。オブジェクト復元可能 (QALWBJRST) システム値は、機密保護に関する属性を持つオブジェクトが復元できるかどうかを指定します。

配布媒体の作成

- セントラル・システム上の活動記録ログを名前変更または削除します。
 - CHGMSGQ MSGQ(QHST) DLVRY(*DFT) と入力して、すべてのメッセージ・ロギングをオフにします。
 - DSPLOG QHST (活動記録ログ表示) コマンドを入力して、すべてのメッセージが活動記録ログに書き込まれていることを確認します。活動記録ログが表示された後、Enter キーを押します。
 - すべての活動記録ログを処理できるように、WRKOBJ QSYS/QHST* *FILE (オブジェクト処理および全活動記録ログ表示) と入力します。Enter キーを押します。
 - それぞれの活動記録ログについて、名前変更または削除のオプション。活動記録ログを QSYS から削除するか、もしくは名前変更して、活動記録ログがターゲット・システムに配布されないようにする必要があります。
- GO LICPGM メニューのオプション 40 (配布媒体の作成) を選択して、各作業を実行します。

3. オプション 40 が完了した後、以下の作業を実行して配布媒体に 2 次言語ファイルを保管します。
 QSYS29xx ライブラリー名の中で、SAVLICPGM コマンドの言語パラメーター xx は 2 次言語の各国語バージョンの機能コードを表します。
 - a. QSYS29xx ライブラリーを保管します。このライブラリーには、2 次言語ファイルが保管されます。
 - b. それぞれのライセンス・プログラムごとに、言語パラメーターとオブジェクト・タイプ・パラメーターを指定して保管してください。OBJTYPE のパラメーターは *LNG でなくてはなりません。例を示します。
 SAVLICPGM LICPGM(5722WDS) DEV(TAP01) LNG(29xx) OBJTYPE(*LNG) ENDOPT(*LEAVE)
4. ライブラリー保管 (SAVLIB) コマンドを使用して、追加のユーザー・ライブラリーを配布媒体に保管します。
5. 保管 (SAV) コマンドを使用して、ユーザー登録簿とその他のオブジェクトを配布媒体に保管します。
6. 最後の配布媒体の終わりにライセンス・キー・ファイルを保管します。
7.  DVD 媒体をイメージ・カタログに追加する予定の場合は、シナリオ: イメージ・カタログからの導入の準備に進んでください。 

ユーザー・プロファイル (QFILEUPR) ファイルおよび装置構成 (QFILEIOC) ファイルは、IBM^(R) 提供のファイル名のリストには表示されません。ただし、これらのファイルは、オプション 40 (配布媒体の作成) を使用して作成する配布媒体に表示されます。


終了する際に
<input type="checkbox"/> メッセージ待ち行列変更 (CHGMSGQ) コマンドを入力して、QHST メッセージ待ち行列についての送達パラメーターを前の (配布媒体を作成する前の) 値に設定します。これにより、すべてのメッセージ・ロギングが再びオンになります。
<input type="checkbox"/> 配布媒体の内容を検証します。テープの内容を検証するには、テープの表示 (DSPTAP) コマンドを使用します。DVD の内容を検証するには、光ディスク表示 (DSPOPT) コマンドを使用します。配布媒体に保管された全ファイルのリストについては、19 ページの『配布媒体の内容』を参照してください。
<input type="checkbox"/> 配布媒体のカバー・シートに記載されたライセンス・プログラムのリストをメモしておいてください。テープに格納されているライセンス・プログラムのリストを表示するには、DSPTAP コマンドを使用します。DVD に入っているライセンス・プログラムのリストを表示するには、光ディスク・ボリュームの処理 (WRKOPTVOL) コマンドを使用します。
<input type="checkbox"/> 媒体を複製します。それぞれのターゲット・システムごとに、複製を 1 つ作成します。テープを複製するには、テープ複製 (DUPTAP) コマンドを使用します。DVD を複製するには、光ディスク複製 (DUPOPT) コマンドを使用します。
<input type="checkbox"/> 配布媒体のカバー・シートのコピーを必要なだけ作成します。
<input type="checkbox"/> 配布媒体の各複製に、カバー・シートを添付します。ターゲット・システムは、このカバー・シートを使用して、配布媒体上の特定のライセンス・プログラムを見付けます。

次にすること:

9 ページの『配布媒体導入チェックリスト』の処理項目を実行します。

配布媒体導入チェックリスト

ターゲット・システムに配布媒体を導入する手順は、次のとおりです。配布媒体の導入とターゲット・システムへのオブジェクトの復元が完了したら、「終了する際に」チェックリスト内の、お客様の配布に当てはまるステップを実行します。

1. 「ソフトウェアの導入」  マニュアルを読んで、ターゲット・システムに配布媒体を導入します。
 - a. 自動導入によって配布媒体を導入する予定の場合は、第 3 章に進んでください。
 - b. 手動導入によって配布媒体を導入する予定の場合は、第 4 章に進んでください。

このチェックリストの処理項目を実行したら、配布媒体の導入は完了です。

2. ユーザー定義の導入プログラムを作成しなかった場合、『ターゲット・システムへの導入作業』に書かれている作業を実行して、オブジェクトをターゲット・システムに復元する作業を行う必要があります。

終了する際に
<input type="checkbox"/> ユーザー定義の導入プログラムを作成した場合は、そのユーザー定義導入プログラム (QLPUSER) が正常にロードされたかを確認します (10ページを参照)。
<input type="checkbox"/> Infoprint ^(R) Designer for iSeries ^(TM) を配布した場合は、統合ファイル・システムから 2 つのファイルを消去します。(10ページを参照)。
<input type="checkbox"/> 必要に応じて、エレクトロニック支援データを変更します (10ページを参照)。

中央サイトからの配布が完了しました。

ターゲット・システムへの導入作業

ユーザー定義の導入プログラムを作成しなかった場合、以下の、配布媒体に保管されたオブジェクトをターゲット・システムに復元する作業を行う必要があります。これらの作業のすべてまたは一部を、ユーザー定義の導入プログラムに組み込むことができます。配布媒体がターゲット・システムに導入された後に、プログラムは自動的にこれらの作業を実行します。

ユーザー定義の導入プログラムを作成しなかった場合は、配布媒体をターゲット・システムに導入した後にこれらの作業を実行してください。ユーザー定義の導入プログラムを作成した場合は、これらの作業をその導入プログラムに組み込んでください。配布媒体に保管したオブジェクトのみを、保管されている順序と同じ順序で復元してください。

- ユーザー・プロファイル復元 (RSTUSRPRF) コマンドによるユーザー・プロファイルの復元。
- 構成の復元 (RSTCFG) コマンドによるシステム構成データの復元。

注: システム構成データの復元が適切なのは、セントラル・システムとターゲット・システムが完全に同じハードウェア構成をもっている場合のみです。

- ライブラリー復元 (RSTLIB) コマンドによる、ユーザー・ライブラリーの復元。
- 復元 (RST) コマンドによるファイル・システム・オブジェクトの復元。
- OS/400^(R) リリースとは別個に、IBM^(R) から配布される新規のライセンス・プログラムの導入。
- 2 次言語ファイルの復元。以下の手順で行います。
 1. ライブラリー復元 (RSTLIB) コマンドを使用して、ターゲット・システム上の QSYS29xx ライブラリーを復元します。xx は、2 次言語の各国語バージョンの機能コードを表します。

2. ライセンス・プログラム復元 (RSTLICPGM) コマンドを、LNG パラメーターに 29xx を、RSTOBJ パラメーターに *LNG をそれぞれ指定して実行し、ターゲット・システムにてライセンス・プログラムを復元します。例を示します。

```
RSTLICPGM LICPGM(5722WDS) DEV(TAP01) RSTOBJ(*LNG) LNG(29xx) ENDOPT(*LEAVE)
```

- 制御言語 (CL) コマンドによるアプリケーションの導入。
- ライセンス・プログラム復元 (RSTLICPGM) コマンドによる、System Manager for iSeries^(TM) ライセンス・プログラムによってパッケージされたユーザー・プロダクトの導入。
- ライセンス・キー情報の復元。以下の手順で行います。
 1. ライセンス・キー・ファイルを復元します。
 2. ライセンス・キーの追加 (ADDLICENSE) コマンドを実行して、ライセンス・キー・ファイルからすべての *LOCAL ライセンスを追加します。
 3. ライセンス・キー・ファイルを削除します。

次にすること:

- 配布媒体をターゲット・システムに導入した場合は、9 ページの『配布媒体導入チェックリスト』の処理項目を実行します。
- ユーザー定義の導入プログラムを作成する場合は、6 ページの『ターゲット・システム用のユーザー定義導入プログラムの作成』に戻ります。

導入後のオプションの作業

ターゲット・システムへの配布媒体の導入が完了したら、以下の作業の中からお客様の配布に当てはまる作業をターゲット・システムで実行してください。

ユーザー定義導入プログラム (QLPUSER) が正常にロードされたかを確認する

1. GO LICPGM メニューのオプション 50 (メッセージ・ログの表示) を選択します。
2. 「ユーザー導入処理が完了しました (User install processing completed)」というメッセージを受け取ったことを確認します。

Infoprint^(R) Designer for iSeries^(TM) を配布した場合は、統合ファイル・システムから 2 つのファイルを消去する

- コマンド行で、次のように入力します。

```
RMVLNK '/QIBM/ProdData/AFPDesigner/session/IPDes'
```
- コマンド行で、次のように入力します。

```
RMVLNK '/QIBM/ProdData/AFPDesigner/session/IPIEd'
```

エレクトロニック支援データを変更する

1. 保守およびマーケティングに関する連絡先電話番号を変更します。
 - CALL QESPHONE と入力して、Enter キーを押します。
 - CALL QTIPHONE と入力して、Enter キーを押します。
2. 連絡先データベースの情報を変更して、ターゲット・システムの設置場所の個人および電話番号 (通話用) を組み込む必要があります。
 - a. 任意のコマンド行から、接続情報処理 (WRKCNTINF) コマンドを入力します。
 - b. 「エレクトロニック支援の処理」画面で、オプション 2 (保守情報の処理) を選択します。

中央サイトからの配布の概念

中央サイトからの配布は、1 つの iSeries^(TM) サーバー ➤ または論理区画のソフトウェアを複製し、◀ その複製したものを複数の iSeries サーバーに配布するプロセスです。中央サイトからの配布プロセスは、以下の処理で構成されています。

『中央サイトからの配布に関する用語』

中央サイトからの配布に特有の用語について理解してください。

12 ページの『セントラル・システムからのソフトウェア配布作業の概要』

中央サイトからの配布プロセスについて理解してください。最初に、セントラル・システムからのソフトウェアの配布を準備する必要があります。次に、オプション 40 (配布媒体の作成) を使用して、配布媒体を作成します。そして、ユーザー・ライブラリー、登録簿、2 次言語ファイルなどの追加オブジェクトを媒体に保管します。最後に媒体をターゲット・システムに導入します。

13 ページの『ソフトウェア・ライセンス情報の配布』

ソフトウェア・ライセンス情報と、ソフトウェア・ライセンス情報を配布する適切な時期について理解してください。

14 ページの『中央サイトからの配布で使用する配布媒体のタイプ』

➤ イメージ・カタログ、◀ DVD、テープ、および CD-ROM について説明しています。それぞれの配布媒体に利点と欠点があります。どの媒体が、お客様のコンピューティング環境に合っているかを判別してください。

14 ページの『導入プロファイル』

IBM^(R) は、お客様がターゲット・システムに配布媒体を導入する際に使用できる、4 種類の導入プロファイルを提供します。これらのプロファイルを、お客様特有のニーズに合うようにカスタマイズすることもできます。

15 ページの『配布媒体の導入に導入プロファイルを使用することの利点』

ターゲット・システムに配布媒体を導入する際に導入プロファイルを使用することの利点について述べています。

16 ページの『ターゲット・システムへの導入方法』

ターゲット・システムに配布媒体を自動的に、または手動で導入することができます。

16 ページの『ライセンス・プログラムの圧縮と解凍』

ライセンス・プログラムを圧縮すると、記憶域の節約など幾つかの利点があります。

17 ページの『1 次および 2 次言語ファイルの配布』

中央サイトからの配布の一環として、1 次および 2 次言語ファイルを配布できます。





17 ページの『プログラム一時修正 (PTF) の中央サイトからの配布』

中央サイトからの配布プロセスによって、PTF をセントラル・システムに適用し、それらの PTF をターゲット・システムに配布することが可能です。PTF の適用は 1 回で済みます。

中央サイトからの配布に関する用語

以下の用語は、中央サイトからの配布特有の用語です。これ以外の用語および概念については、iSeries Information Center の用語集を参照してください。

中央サイトからの配布

1 つの iSeries^(TM) サーバーのソフトウェアを複製するか、 もしくは論理区画のソフトウェアを複製し、 それを複数の iSeries サーバー  および区画に配布するプロセス。

セントラル・システム

IBM^(R) 提供の媒体を受け付けるライセンス交付を受けた iSeries サーバー。分散システム・ネットワークでは、セントラル・システムは通常、警報、アプリケーション設計、およびネットワーク管理作業のための通信ネットワークにおけるフォーカル・ポイントとなるように定義されています。

セントラル・システムでは、セントラル・システムから独立して稼働する他の iSeries サーバーにライセンス・プログラムを配布することもできます。ただし、これらの独立システムは、ライセンス・プログラムの配布についてはセントラル・システムに依存します。

全システム・アップグレード

OS/400^(R) オペレーティング・システムの新規バージョン。他の IBM ライセンス・プログラム、IBM 以外のライセンス・プログラム、プログラム一時修正 (PTF)、およびお客様作成のアプリケーションも含まれる場合があります。

キー付きプロダクト

ライセンス・キーを必要とするライセンス・プログラム。この種のプロダクトの承諾タイプは *KEYED です。

標準プロダクト

ライセンス・キーを必要としないライセンス交付情報が含まれるライセンス・プログラム。この種のプロダクトの承諾タイプは、*WARNING または *OPRACION です。

ターゲット・システム

セントラル・システムからライセンス内部コード、OS/400 基本オペレーティング・システム、およびライセンス・プログラムの配布を受ける iSeries サーバー。これらのシステムでの操作員の不在が、可能な場合もあります。

ターゲット・システムは、分散システム通信ネットワーク上にあるか、またはセントラル・システムから独立して稼働していても構いませんが、ライセンス・プログラムの配布と、アプリケーションの開発および保守についてはセントラル・システムに依存しています。

セントラル・システムからのソフトウェア配布作業の概要

以下は、セントラル・システムからのソフトウェア配布に伴う作業の概要です。

1. セントラル・システムからのソフトウェアの配布を準備します。
最初に、使用する配布媒体のタイプ、導入プロファイル、およびターゲット・システムへの導入方法を選択する必要があります。次に、ターゲット・システムの操作員が導入作業を行わずに済むように、ユーザー定義の導入プログラムを作成することができます。最後に、セントラル・システムとターゲット・システムで配布の準備が整ったことを確認します。
2. GO LICPGM メニューのオプション 40 を使用して、配布媒体を作成します。
 - a. 以下は、オプション 40 で実行する作業です。
 - 1) すべてのサブシステムを終了させます。
 - 2) ライセンス内部コード、OS/400^(R) 基本オペレーティング・システム、システム構成データ、機密保護オブジェクト、システム資源管理プログラム (SRM) オブジェクト、およびユーザー・プロファイルを保管します。

- 3) QGPL ライブラリーを保管します。このライブラリーには、QLPUSER というユーザー定義の導入プログラムが含まれています。
 - 4) QUSRSYS ライブラリーを保管します。
 - 5) 配布するライセンス・プログラムを保管します。「ライセンス・プログラムの保管 (Save Licensed Program)」画面で、配布するライセンス・プログラムを選択します。OS/400 Extended Base Support および OS/400 Extended Base Directory Support の 2 つのライセンス・プログラムは、必須なので事前選択されています。
- b. オプション 40 の処理が完了した後、追加オブジェクトを配布媒体に保管します。たとえば、ユーザー・ライブラリー、ユーザー登録簿、および 2 次言語ファイルを保管できます。ユーザー定義の導入プログラムを作成する場合は、その導入プログラムに、これらの追加ライブラリーおよびオブジェクトを復元させるようにしてください。
3. 配布媒体をターゲット・システムに導入します。

ターゲット・システムに配布しない、セントラル・システム上の QGPL および QUSRSYS ライブラリーにはオブジェクトを保管しないでください。

配布媒体に保管されたファイルの詳細記述については、19 ページの『配布媒体の内容』を参照してください。

ソフトウェア・ライセンス情報の配布

OS/400^(R) のライセンス管理機能を使用するソフトウェア・プロダクトのライセンス情報を配布できます。これらのプロダクトの場合、ライセンス情報には、メッセージを受け取るメッセージ待ち行列、ログ違反インディケータ、使用制限、およびソフトウェア・ライセンス・キーが含まれます。ライセンス・ユーザーの現行のリストは、セントラル・システムからターゲット・システムには配布されません。

ライセンス管理を使用するソフトウェア・プロダクトおよびフィーチャーのリストを表示するには、ライセンス情報の処理(Work with License Information (WRKLCINF)) コマンドを実行します。

すべてのターゲット・システムの全ソフトウェア・ライセンス情報を配布媒体に組み込むことができます。それぞれのターゲット・システムに適したライセンス情報は、導入プロセスの一部として自動的にロードされます。

使用制限の設定は、配布するプロダクトのタイプによって異なります。ライセンス情報が含まれている標準プロダクトの使用制限は、配布媒体を作成する前にセントラル・システムで設定しておく必要があります。標準プロダクトの使用制限は自動的に配布媒体に組み込まれて、ターゲット・システムに配布されます。キー付きプロダクトの場合、使用制限は、ライセンス・キーに組み込まれています。各ターゲット・システムのすべてのキー付きプロダクトは、ターゲット・システムで稼働させるために固有キーを必要とします。そのため、配布媒体を作成する前に、全ターゲット・システムのすべてのライセンス・キーを配布媒体に追加する必要があります。ソフトウェア・ライセンス・キーの詳細については、「ソフトウェア・ライセンス・キー」を参照してください。

いつライセンス・プログラムのライセンス情報を配布するべきか

ライセンス・プログラムのライセンス情報を配布する適切なタイミングは、そのプログラムの新規のライセンス期間を導入する時です。

ライセンス期間とは、ライセンス・プログラムの許可された使用制限が存続する期間のことです。使用制限は、あるバージョン、リリース、またはモディフィケーション・レベルの間、存続することができます。

たとえば、プロダクト X のライセンス期間がバージョンであれば、許可された使用制限はプロダクトのバージョン全体にわたって有効です。プロダクト X についてライセンス情報が導入されると、プロダクト X の新しいバージョンが配布されるまで、ライセンス情報は導入されません。新しいリリースおよびモディフィケーション・レベルが導入される時、この元のライセンス情報はターゲット・システムで保持されます。プロダクト X の新しいバージョンが配布されると、ターゲット・システムで使用制限の変更が必要になることがあります。



ソフトウェア・ライセンス・キー

ライセンス・キー・ファイルには、配布するソフトウェア・ライセンス・キーが含まれています。


ユーザーがシステムの保管 (SAVSYS) コマンドを実行すると、システムはこのファイルを配布媒体に追加します。QALZALPKEY ファイルは、ライセンス・キーがロードされた後で、ターゲット・システムから削除されます。

キー付きプロダクトを使用する日ごとに、猶予期間が満了する日付を示す警告メッセージがメッセージ待ち行列に送られます。このメッセージは、QSYSOPR メッセージ待ち行列と、ライセンス情報の変更 (CHGLICINF) コマンドにより定義した他のすべてのメッセージ待ち行列に送られます。



中央サイトからの配布で使用する配布媒体のタイプ

中央サイト配布のためのセントラル・システムに使用できるデバイスは、 イメージ・カタログ、 テープ、DVD、および CD-ROM です。

• イメージ・カタログ

十分な記憶域があり、ターゲット・システムが V5R2 の場合、このオプションは経済的で便利です。最初に、中央サイトからの配布用に DVD を作成し、それをイメージ・カタログに追加して、電子的に配布します。このオプションは、光ディスク媒体検査、無人導入、およびネットワーク内でのソフトウェアのアップグレードに特に有効です。




• テープ

高速のテープは、全システム・アップグレードに関連したソフトウェア、または  論理区画のソフトウェアを配布する上で最速の方法です。 ただし、テープ用のハードウェアおよび媒体は、DVD のハードウェアと媒体よりも費用がかかります。

• DVD

DVD は高速テープよりも低速ですが、経済的です。

• CD-ROM

 中央サイトからの配布で CD-ROM を配布媒体として使用する方法については、CD-ROM による iSeries^(TM) ソフトウェアの配布を参照してください。 

導入プロファイル

導入プロファイルには、ユーザーが導入プロセスでの実行したい作業が含まれています。導入プロファイルは、15 ページの『配布媒体の導入に導入プロファイルを使用することの利点』の通り、導入プロセス上多数の利点をもたらします。導入プロファイルの作成時に行う選択は、ターゲット・システムにのみ影響し、セントラル・システムには影響しません。IBM^(R) から提供されるプロファイルの中の 1 つを使用することもできますし、IBM から提供されるプロファイルをユーザーのニーズに合うようにカスタマイズすることもできます。

IBM 導入プロファイル

IBM から、ほとんどすべての状況に適合する導入プロファイルが用意されています。以下に、導入プロファイルを共通使用度の高い順にリストしています。プロファイルの説明と、それぞれのプロファイルに関連した特別な考慮事項も記載されています。

- **現行リリースの置き換え (QRPLRELLVL)**

全システムのアップグレードに関連するソフトウェアの配布には、このオプションを使用します。これには、すべての IBM ライセンス・プログラムと IBM 以外のライセンス・プログラムも含まれます。システムは、媒体にあるのと同じバージョン、リリース、およびモディフィケーション・レベルのライセンス・プログラムを置換します。

- **新規システムの導入 (QINSNEWSYS)**

新規ターゲット・システムへの全システム・アップグレードに関連するソフトウェアの配布には、このオプションを使用します。中央サイトからの配布によって、新規の iSeriesTM サーバーを導入できます。➤ あるいは、このオプションを使用して、論理区画のソフトウェアを配布することもできます。⚡ ターゲット・システムには、事前にライセンス内部コードの現行レベルが導入されている必要があります。

- **現行リリースの IBM 置き換え (QIBMRPLRLS)**

全システムのアップグレードに関連するソフトウェアの配布には、このオプションを使用します。このプロファイルは、IBM ライセンス・プログラムのみを組み込みます。システムは、媒体にあるのと同じバージョン、リリース、およびモディフィケーション・レベルのライセンス・プログラムは置換しません。

- **1 次言語の変更 (QCHGPRILNG)**

➤ 全システム・アップグレードに関連したソフトウェアまたは論理区画のソフトウェアの配布を予定しており、なおかつ 1 次言語を変更したい場合は、現行リリースの置き換えプロファイルまたは現行リリースの IBM 置き換えプロファイルのいずれかを使用してください。ターゲット・システムの 1 次言語のみを変更する場合は、1 次言語の変更に関する考慮事項を参照してください。⚡

IBM 導入プロファイルのカスタマイズ

ユーザー独自の導入プロファイルを作成するか、もしくは、IBM 提供の導入プロファイルのカスタマイズする場合は、GO LICPGM メニューのオプション 41 (導入プロファイルの処理) を選択してください。導入プロファイルに関する処理を行うには、以下の権限が必要です。

- QUSRSYS ライブラリー内の QLPAUTO ファイルを処理するための *SAVSYS 特殊権限
- QUSRSYS ライブラリー内の QLPAUTO ファイルを処理するための *USE (またはそれ以上の) 権限
- QUSRSYS ライブラリー内の QLPAUTO ファイルを処理するための *CHANGE 権限

配布媒体の導入に導入プロファイルを使用することの利点

ライセンス・プログラムおよびアプリケーション・プログラムが入っている媒体の導入に導入プロファイルを使用することには、以下の利点があります。

- ターゲット・システムの操作員が行う作業は、配布媒体のマウント以外はほとんど (またはまったく) 必要なくなります。
- ユーザーが、カスタマイズされた導入プロファイルを作成して、ターゲット・システムでの導入を制御することができます。
- 導入が失敗した後の再開の可能性があります。(導入プロセスの、成功した部分をバイパスすることもできます)。
- 導入中のメッセージが減少または除去されます。

- ユーザーが、導入が成功した後、ユーザー定義の導入プログラムを使用してアプリケーション・プログラムを導入したり、システムをさらにカスタマイズしたりすることができます。

導入プロファイルを使用した場合、以下の操作員による作業が除去されます。

- ライセンス内部コードを復元するための機能の選択
- オペレーティング・システムを導入するためのオプション肢の選択
- オペレーティング・システムの導入の確認
- 言語機能の選択
- 言語機能の確認
- 導入オプション肢の選択
- IPL オプション肢の選択

ターゲット・システムへの導入方法

ターゲット・システムでの配布媒体の導入方法は、自動導入と手動導入です。以下の説明を読んで、どちらの導入方法を選択するか判断してください。

• 自動導入

自動導入の場合、ターゲット・システムの操作員は、指示に従って配布媒体をロードするだけです。この方法を選択すると、導入プロファイルとユーザー定義の導入プログラムを使用することができるので、この方法は最も一般的に使用されています。

導入プロファイルを使用して、ライセンス・プログラム、修正 (PTF)、およびアプリケーション・プログラムを含む媒体を導入できます。導入プロファイルの使用により、ターゲット・システムの操作員が行う追加作業を除去することができます。また、導入プロセスをカスタマイズすることもできます。

ユーザー定義の導入プログラムを作成することで、お客様が作成したアプリケーションを配布し、ターゲット・システムの操作員による追加作業を除去することが可能になります。

• 手動導入

ターゲット・システムに記憶域を追加する必要のある場合のみ、手動導入を利用してください。

ライセンス・プログラムの圧縮と解凍

中央サイトからの配布用の配布媒体を作成する際に、使用頻度の高いライセンス・プログラムをすべて解凍状態のままにしておくこともできます。あるいは、一部のライセンス・プログラムを圧縮状態で配布し、一部のプログラムを解凍状態で配布することもできます。

配布媒体を作成する前に、オブジェクトの圧縮と解凍に関する以下の項目を考慮してください。

- IBM[®] オブジェクトとユーザー作成オブジェクトの両方を圧縮することができます。IBM プログラム・オブジェクトは、制限状態でのみ圧縮することができます。
- プログラム (*PGM)、サービス・プログラム (*SRVPGM)、およびモジュール (*MODULE) は、それらが最初に使用されるときに、自動的かつ永続的に解凍されます。
- 圧縮されたパネル (*PNLGRP)、メニュー (*MENU)、印刷装置ファイル (属性 PRTF を持つ *FILE)、または表示装置ファイル (属性 DSPF を持つ *FILE) が最初に使用されるときには、一時的に解凍されません。そのような一時的に解凍されたオブジェクトは、同じ初期プログラム・ロードで 5 回または連続して 2 日使用されると、永続的に解凍されます。
- 通常、圧縮されたオブジェクトに対する操作は、オブジェクトが解凍されている場合よりもわずかに多くの時間がかかります。非常に大きな圧縮されたオブジェクトが解凍される場合、システムは、「操作進行中につき、しばらくお待ちください」というメッセージを送ります。

ターゲット・システムで使用されるディスク・スペースの量を減らすために、以下の処置を取ることをお勧めします。同時に、これらの処置は、頻繁に使用されるオブジェクトが必ず解凍されるようにします。

- ターゲット・システムに送るすべてのものを圧縮する。
- セントラル・システムで、ターゲット・システムと同じ方法でオブジェクトを使用する。パネル・グループ、メニュー、印刷装置ファイル、および表示装置ファイルについて、それを少なくとも 5 回行います。
- プリマスターリング媒体を作成する場合、CD-ROM 上のファイルは複数のボリュームにまたがることはできません。保管されるファイルが CD-ROM に収まるように、オブジェクトを圧縮する必要があります。

オブジェクトの圧縮と解凍についての詳細は、圧縮されたオブジェクトと記憶空間を参照してください。

1 次および 2 次言語ファイルの配布

中央サイトからの配布を利用して、1 次および 2 次言語ファイルを配布できます。

1 次言語ファイル

1 次言語とは、情報の表示や印刷に使用されるデフォルトの言語としてシステムに導入される言語のことです。IBM[®] ライセンス・プログラムの配布媒体には、1 次言語ファイルが含まれています。セントラル・システムで作成する配布媒体では、ターゲット・システムで 1 次言語ファイルを導入できるように、1 次言語ファイルが複写されます。

2 次言語ファイル

2 次言語ファイルの配布は、1 次言語ファイルの配布よりも複雑です。2 次言語ファイルの配布媒体への保管方法は、12 ページの『セントラル・システムからのソフトウェア配布作業の概要』で説明されているとおりです。ターゲット・システムへの復元は、ユーザー定義の導入プログラムによって行われます。

プログラム一時修正 (PTF) の中央サイトからの配布

PTF を、全システム・アップグレードまたは論理区画に関係するソフトウェアの一部として配布することができます。中央サイトからの配布プロセスで、PTF は以下のように配布されます。最初に、PTF をセントラル・システムに適用します。配布媒体を作成する際、PTF は配布媒体に保管されて、配布されます。配布媒体がターゲット・システムに導入されると、ライセンス内部コードの複写 A と複写 B が置き換えられ、ライセンス・プログラムがセントラル・システムの PTF レベルで導入されます。

中央サイトからの配布を利用した PTF の配布には利点があります。その 1 つは、ターゲット・システムで、PTF の導入に関する特別な指示が不要であることです。もう 1 つは、ターゲット・システムが、セントラル・システムと同じ PTF レベルおよびリリース・レベルになることです。

ユーザー定義の導入 (QLPUSER) プログラムの導入に関するトラブルシューティング

配布媒体の導入後に、ターゲット・システムが「ユーザー導入処理が完了しました (User installation processing completed)」というメッセージを受け取らなかった場合、QLPUSER プログラムの導入に問題が起こった可能性があります。

メッセージ CPI3D8B: ユーザー・インストール処理失敗

ターゲット・システムがこのメッセージを受け取った場合、それはシステムが QGPL ライブラリーの中の QLPUSER プログラムを実行して、その結果 1 つ以上のエラーが起こったことを示しています。

メッセージ表示なし

メッセージが表示されなければ、それは次のいずれかのインスタンスが起こったことを意味します。

- 配布媒体上の QGPL ライブラリーに QLPUSER プログラムが存在しなかった。
- QLPUSER プログラムを呼び出すことができずに、IBM^(R) 提供のプロダクトの導入が失敗しました。
- QGPL または QUSRSYS が正常に導入されなかった。この 2 つのライブラリーのどちらかがターゲット・システムに正常に導入されないと、QLPUSER プログラムは呼び出されません。


中央サイトからの配布についての関連情報

以下には、中央サイトからの配布トピックに関連した iSeries^(TM) の資料 (PDF 形式)、Web サイト、および Information Center トピックが記載されています。PDF はすべて表示したり印刷することができます。

中央サイトからの配布

- 19 ページの『配布媒体の内容』
- 21 ページの『2 次言語をサポートしないライセンス・プログラム』
- 22 ページの『カバー・シート』

資料

ソフトウェアの導入  (約 250 ページ)

Redbooks^(TM)

IBM^(R)  iSeries Handbook 



Web サイト

 CD-ROM による iSeries ソフトウェアの配布  

その他の情報

- 圧縮されたオブジェクトと記憶空間
- OS/400^(R) のリリースおよび関連ソフトウェアのインストール
- ソフトウェア・プロダクトの管理

表示用または印刷用の PDF ファイルを Netscape Navigator からワークステーションに保管するには、次のようにします。

1. ブラウザーで、PDF を右マウス・ボタンでクリックする (上記のリンクを右マウス・ボタンでクリックする)。
2.  Internet Explorer を使用している場合は、「対象をファイルに保存」をクリックする。Netscape Communicator を使用している場合は、「Save Link As...」をクリックする。 
3. PDF を保管したい登録簿に進む。
4. 「保存」をクリックする。

これらの PDF を表示したり印刷するには Adobe Acrobat Reader が必要です。これは、Adobe Web サイトからダウンロードできます。

配布媒体の内容

配布媒体の内容の表には、配布媒体に保管されるファイルがリストされています。配布媒体の内容の表を利用して、すべてのファイルを配布媒体に正しく転送したかを確認してください。

次の表は、配布媒体の内容の表にリストされている総称ファイル名のキーです。


キー		
記号	説明	例
xx	各国語バージョン (NLV) 識別コード	24 は英語を示している
yy	2 桁の数値	22
PID	プロダクト識別コード	SS1
v	バージョン	5
r	リリース	2
m	モディフィケーション	0
nn	追加のプロダクト・ライブラリーまたは統合ファイル・システム・ファイルで構成される、最後のオプション・ファイル	



以下の表には、ファイルが、配布媒体に保管されている順序でリストされています。



配布媒体の内容		
テープ・ファイル名	光ディスク・ファイル名	説明
57yy-SS1 OS/400 ^(R)		
テープでは使用せず	/QCDIML	CD-ROM 導入専用の IML ブートストラップ・ファイル
QFILEIML	CD-ROM では使用せず	テープ導入専用の IML ブートストラップ・ファイル
QVvRrMmL000.L29xx	/QLANGID/QVvRrMm	バージョン・リリース・モディフィケーション・インディケーター・ファイル (導入時に使用) (初回保管)
	/QLANGID/Q_L29xx	1 次言語インディケーター・ファイル (導入時に使用) (初回保管)
	/QLANGID/Q_LVL00	レベル・インディケーター・ファイル (導入時に使用) (初回保管)
QFILESRCR	/QFILESRCR	ライセンス内部コード表示
QIAM400	/QIAM400	これが iSeries ^(TM) であることを示している
QFILEMCD	/QFILEMCD	すべてのライセンス内部コード・ファイル

配布媒体の内容		
テープ・ファイル名	光ディスク・ファイル名	説明
QVvRrMmL00.L29xx	/QLANGID/QVvRrMm	バージョン・リリース・モディフィケーション・インディケーター・ファイル (導入時に使用) (2 回目保管)
	/QLANGID/Q_L29xx	1 次言語インディケーター・ファイル (導入時に使用) (2 回目保管)
	/QLANGID/Q_LVL00	レベル・インディケーター・ファイル
QFILEIPL	/QFILEIPL	導入ファイル
QFILEIN	/QFILEIN	導入ファイル
Q57yySS1vrmM.0000	/Q57yySS1/Qvrm00M_/Q00/Q00	ソフトウェア・アグリーメント・ファイル
Q57yySS1vrmM.0001	/Q57yySS1/Qvrm00M_/Q00/Q01	導入ファイル (QSYS 単純オブジェクト)
Q57yySS1vrmM.0002	/Q57yySS1/Qvrm00M_/Q00/Q02	導入ファイル (QSYS 単純オブジェクト)
⋮	⋮	⋮
⋮	⋮	⋮
Q57yySS1vrmM.0015	/Q57yySS1/Qvrm00M_/Q00/Q15	導入ファイル (QSYS 単純オブジェクト)
Q57yySS1vrmM.0016	/Q57yySS1/Qvrm00M_/Q00/Q16	導入ファイル (QSYS 単純オブジェクト)
Q57yySS1vrmxx0001	/Q57yySS1/Qvrm00xx/Q00/Q01	QSYS 導入ファイル
⋮	⋮	⋮
⋮	⋮	⋮
Q57yySS1vrmxx0007	/Q57yySS1/Qvrm00xx/Q00/Q07	ファイル
Q57yySS1vrmxx0090	/Q57yySS1/Qvrm00xx/Q00/Q90	ファイル
Q57yySS1vrmM.0090	/Q57yySS1/Qvrm00M_/Q00/Q90	導入ファイル (QSYS 複合オブジェクト)
QFILEUPR	/QFILEUPR	ユーザー・プロファイルおよび他の機密保護情報
QFILEIOC	/QFILEIOC	構成情報
QINPREP	/QINPREP	導入ファイル
QGPL.vrm00.xx	/QUSRLIBS/Qvrm00xx/QGPL	QGPL ライブラリー・ファイル
QUSRSYS.vrm00.xx	/QUSRLIBS/Qvrm00xx/QUSRSYS	QUSRSYS ライブラリー・ファイル
➤ ライセンス・プログラム・ファイルの例		
Q57yyPIDvrmM.0000	/Q57yyPID/QvrmM_/Q00/Q00	ソフトウェア・アグリーメント・ファイル (すべてのライセンス・プログラムにこのファイルがあるわけではありません)
Q57yyPIDvrmM.0001	/Q57yyPID/QvrmM_/Q00/Q01	導入制御ファイル — *PGM オブジェクト
Q57yyPIDvrmM.0002	/Q57yyPID/QvrmM_/Q00/Q02	プロダクト・ライブラリー・ファイル

配布媒体の内容		
テープ・ファイル名	光ディスク・ファイル名	説明
Q57yyPIDvrmM.0003	/Q57yyPID/QvrmM_/Q00/Q03	追加のプロダクト・ライブラリーまたは IFS ファイルで構成されるオプション・ファイル
:	:	:
:	:	:
Q57yyPIDvrmM.00nn	/Q57yyPID/QvrmM_/Q00/Qnn	追加のプロダクト・ライブラリーまたは IFS ファイルで構成される、最後のオプション・ファイル
Q57yyPIDvrmxx0001	/Q57yyPID/Qvrmxx/Q00/Q01	導入制御ファイル — *LNG オブジェクト
Q57yyPIDvrmxx0002	/Q57yyPID/Qvrmxx/Q00/Q02	プロダクト・ライブラリー・ファイル
Q57yyPIDvrmxx0003	/Q57yyPID/Qvrmxx/Q00/Q03	追加のプロダクト・ライブラリーまたは IFS ファイルで構成されるオプション・ファイル
:	:	:
:	:	:
Q57yyPIDvrmxx00nn	/Q57yyPID/Qvrmxx/Q00/Qnn	追加のプロダクト・ライブラリーまたは IFS ファイルで構成される、最後のオプション・ファイル
2 次言語ファイルの例		
QSYS29xx	/QSYS29xx	NLV 29xx 用の 2 次言語ライブラリー
Q57yyPIDvrmxx0001	/Q57yyPID/Qvrmxx/Q00/Q01	導入制御ファイル — *LNG オブジェクト
Q57yyPIDvrmxx0002	/Q57yyPID/vrmxx/Q00/Q02	プロダクト・ライブラリー・ファイル
Q57yyPIDvrmxx0003	/Q57yyPID/Qvrmxx/Q00/Q03	追加のプロダクト・ライブラリーまたは IFS ファイルで構成されるオプション・ファイル
:	:	:
:	:	:
Q57yyPIDvrmxx00nn	/Q57yyPID/Qvrmxx/Q00/Qnn	追加のプロダクト・ライブラリーまたは IFS ファイルで構成される、最後のオプション・ファイル 

2 次言語をサポートしないライセンス・プログラム

以下に挙げたライセンス・プログラムは、2 次言語をサポートしません。

- 5722-SS1 オプション 6、7、8、13、18、21、26、27、38、39、41、 42、および 43
- 5722-JV1 オプション 3、4、および 5
- 5716-FNT オプション 1 ～ 15
- 5716-FN1 オプション 1 ～ 5
- 5722-RD1 オプション 5、11、および 12

- 5722-WDS オプション 35、45、55、および 60
- 5722-BR1 オプション 1 および 2
- 5722-XW1 オプション 1

カバー・シート

中央サイト ID _____

ターゲット・サイト・システム ID _____

バージョン _____ リリース _____ モディフィケーション・レベル _____

媒体の内容:

IBM^(R) ライセンス内部コード

IBM OS/400^(R) ライセンス・プログラム

特別な指示:

この用紙は、必要に応じてコピーすることができます。

コードに関する特記事項

本書には、プログラミングの例が含まれています。

IBM^(R) は、お客様に、すべてのプログラム・コードのサンプルを使用することができる非独占的な著作使用权を許諾します。お客様は、このサンプル・コードから、お客様独自の特別のニーズに合わせた類似のプログラムを作成することができます。

すべてのサンプル・コードは、例として示す目的でのみ、IBM により提供されます。このサンプル・プログラムは、あらゆる条件下における完全なテストを経ていません。従って IBM は、これらのサンプル・プログラムについて信頼性、利便性もしくは機能性があることをほのめかしたり、保証することはできません。

ここに含まれるすべてのプログラムは、現存するままの状態を提供され、いかなる保証も適用されません。商品性の保証、特定目的適合性の保証および法律上の瑕疵担保責任の保証の適用も一切ありません。



Printed in Japan